

地域医療連携だより

高松市立病院
基本理念

『生きる力を応援します』

高松市民病院
基本方針

- 1『リーディングホスピタル』として、高松市医療全体の最適化を目指します。
- 2『理想的な医療』を、ファインチームワークで提供します。
- 3『まごころのある医療人』を全力で育成します。

平成27年

5月号
〈第17号〉

病院屋上からの眺望



診療科紹介 内科

星島 康男 大黒 由加里

日頃から患者さんをご紹介いただきまして、誠にありがとうございます。

今回は、血液疾患の診療についてご紹介させていただきます。外来診療は、毎週火、木、金曜日の午

前中に私が担当し、鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、溶血性貧血、腎性貧血などの貧血、感染性ないし薬剤性の血球減少症、特発性血小板減少性紫斑病などの疾患に対応しています。一方、入院では、各種の



造血器腫瘍（リンパ腫、骨髄異形成症候群、急性白血病、慢性骨髄性白血病、多発性骨髄腫など）に対する化学療法を中心に診療を行っています。その他、再生不良性貧血、血栓性血小板減少性紫斑病、後天性血友病、発作性夜間血色素尿症などの疾患も診療しています。

当院では、血液疾患の診療の際に臨床検査技師やがん化学療法看護認定看護師、病棟看護師とチーム医療に取り組んでいます。検査結果がcriticalな場合、検査技師から私に直接連絡が入り、直ちに赤血球や血小板の輸血、G-CSF、抗生剤の投与を看護師に

指示するなど、迅速に対応しています。輸血に関しては、認定輸血検査技師が一元的に管理して血液製剤の適正使用や有効利用に努め、赤血球製剤の年間使用量約1600単位の廃棄率が0～0.8%と推移しており、長年にわたり輸血の廃棄血はほとんどありません。また、近年、化学療法時のB型肝炎の再活性化の問題が広く注目されていますが、当院でも化学療法委員会を中心に、病院全体でB型肝炎再活性化に対して積極的に取り組んでいます。日本肝臓学会のガイドラインに従い、治療前にB型肝炎マーカーの検査をほぼ100%実施して、再活性化のリスクを評価し、そのリスクに応じて抗ウイルス薬の予防投与や定期的なHBV-DNAモニタリングを行っています。

ドクター間の連携も円滑に行っています。過去の事例ですが、他院から金曜日の午後呼吸困難を伴う巨大な頸部腫瘍がある患者さんをご紹介いただきました。CTを施行後、直ちに外科で生検を施行し、夕方には甲状腺原発非ホジキンリンパ腫の診断にて化学療法を開始しました。翌日から呼吸困難が急速に改善し、現在も元気に通院されています。ときどきハードルが高い症例に遭遇しますが、ドクター間で連携を図り、診療しています。

最後になりましたが、昨年4月から香川大学医学部附属病院血液内科の今滝先生に、月2回（第2・第4木曜日）外来を担当していただき、移植が必要な患者さんにも円滑に対応できるようになっています。

診断に苦慮する場合や突然に重篤な血液疾患の患者さんが来院された場合なども、できる限り対応してまいりますので、外来日以外でもお気軽にご紹介いただけたらと思います。

今後ともよろしくお願い申し上げます。

（文責 星島 康男）



当院の検査技術科では

輸血後感染症検査を実施しています

検査技術科では、「安全で適正」な輸血医療が行われるように、輸血療法委員会を中心に認定輸血検査技師・臨床検査技師が24時間体制で輸血に関する検査や輸血用血液製剤の保管管理を行っています。

輸血用血液製剤は、赤十字血液センターにて安全性を確保するために感染原因となるウイルス検査など各種検査に合格したものを使用しています。しかし、最新の検査法を用いても感染被害を完全になくすことはできません。

そのため当院では、B型・C型肝炎ウイルスやHIV（後天性免疫不全症ウイルス）による輸血後感染症の有無を確認する検査を受けることを推奨しています。輸血同意書にて検査希望のあった患者さんは、

輸血から2～3ヶ月後、当院に通院または入院されている場合、輸血による合併症の早期発見のために輸血後感染症検査を実施しています。

平成26年は、75人の患者さんにこの検査を実施し、実施率も88%と高く、輸血後も患者さんの感染情報を適切に管理しています。



第3回 地域医療連携カンファレンス開催のご案内

特別講演 『見落とししやすい血液疾患』

講師

徳島大学大学院医歯薬学研究部

血液・内分泌代謝内科学 教授 安倍 正博 先生



《講師プロフィール》

S59年 徳島大学 医学部卒業、第一内科入局
H元年 米国テネシー州立メディカルセンター留学
H27年1月 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
生体情報内科学 教授
H27年4月 徳島大学大学院医歯薬学研究部
血液・内分泌代謝内科学 教授

《専門領域》

血液内科（特に多発性骨髄腫）

日時：平成27年5月28日（木） 19:00～21:00
場所：ロイヤルパークホテル高松 ロイヤルホール
高松市瓦町1-3-11 TEL087-823-2222
演題：「見落とししやすい血液疾患」
意見交換会

尚、地域医療連携カンファレンス参加者は、日本医師会生涯教育制度の体験学習1単位、カリキュラムコード(25)(80)を取得いただけますので、併せてご案内申し上げます。

平成27年度 第1回 高松市民病院地域医療連携推進委員会の開催

平成26年12月に地域医療支援病院の承認を受けました。そこで、外部有識者を含めた「高松市民病院地域医療連携推進委員会」を発足致しました。今回、平成27年5月14日（木）に今年度第1回を開催し、地域で支える医療に向けての当院が抱える問題や課題について審議しました。引き続き、急性期病院としての機能を担う当院が、地域医療連携体制の一層の推進及び充実に寄与できるようにしていきたいと思っています。



地域医療連携室の紹介

地域医療連携室からのご挨拶 — 新年度を迎えて —

地域医療連携室長 関貫 聖二

このたび、地域医療連携室が新体制となりましたのでご案内させていただきます。

今後は後方連携を充実させ、青木地域医療連携室長補佐、宇津係長、竹内看護師、高崎看護師、MSW川口、MSW安藤、織田(事務)の7名体制で行います。また、前方連携の受付業務につきましては、前年度同様の体制(委託)となっております。不慣れなことをご迷惑をおかけすることもあるかと存じますが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



地域医療連携室

後列左より
看護師 竹内 看護師 高崎 MSW 川口 係長 宇津
中央列左より
MSW 安藤 事務 織田
前列左より
室長補佐 青木 室長 関貫 事務 井上 事務 石川

介護関連施設職員研修会を開催しました



第12回介護関連施設職員研修会を通して

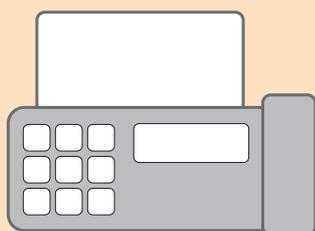
3月13日(金)に『当院と医療・介護施設職員との意見交換会』の演題にて、19名の施設職員の方に地域医療連携室の概要について説明し、当院の職員と施設職員の方々と意見交換をしていただきました。当日行ったアンケート調査より、「病院での事情がわかって勉強になった」「なかなか他職種の方とお話しする機会がないのでいろんな話が聞けてよかった」「他施設との関係を深めるためにももっと話をする時間をとってほしい」など多数のご意見をいただくことができました。ご参加ありがとうございました。



第13回介護関連施設職員研修会を通して

4月23日(木)に『なぜ間違える、どう防ぐ』の演題にて、当院の医療安全管理者から17名の施設職員の方に講義を行わせていただきました。当日行ったアンケート調査より、「利用者・入居者のヒヤリハットが少しでも減るように、施設でも今回のことを発表・提案していきたい」「服薬の自己や危険予測において、予知訓練やチェック体制の見直しに活かしたい」「復唱確認、ダブルチェック、指差し呼称などを取り入れたい」など多数のご意見をいただくことができました。ご参加ありがとうございました。

… FAX 予約をお願いします…



患者さんをご紹介していただく際に、**地域医療連携室**へ事前にFAX予約をお願いいたします。「高松市民病院FAX診療申込書」をご利用ください。

電話 (087) 834-2181(代表)

FAX (087) 834-2223(直通)

受付時間 平日(月～金) 8:30～17:00

※当日のFAX予約は受付できませんのでご了承ください。

平成26年度 紹介患者数 FAX予約数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
紹介患者数 (再診含む)	400	369	421	413	394	383	437	372	359	369	320	363
FAX予約数	92	84	94	100	80	76	137	85	81	73	96	103